

手指の^{けんしやう}腱鞘炎　ーばね指とドケルバン病

大阪掖済会病院
整形外科 医長 米田昌弘

1. はじめに

私たちは普段手指を当たり前のように使っていますが、これが使えなくなると非常に不便であり、仕事や日常生活に支障が出て困ってしまいます。手指に起こる腱鞘炎は整形外科診療の中で比較的多く診られる病気ではありますが、その正しい診断と治療法を知ればそれほど恐れる病気ではありません。

2. ばね指（弾発指）

手指のつけ根に痛みや腫れがあり、その指を曲げた状態から真つすぐに伸ばそうとしても引っかかってすぐには伸ばすことができません。さらに伸ばそうとすると、「ばね」のように急激に伸びます。ちょうどおはじきをはじく時の指の動きを想像していただければよいかと思います。男女では女性の方が多く、手をよく使う職業のほか、更年期や妊娠中、出産後の女性、糖尿病や透析治療を受けている人に多く見られます。症状は利き手の親指に多く、次いで中指、くすり指の順になっています。原因は、指を曲げるための腱というヒモと、腱鞘という腱の浮き上がりをおさえるためのバンドとの間に使い過ぎによる炎症が起こることが考えられています。さらに指を使い続けると「ばね現象」が出現します。ばね指を放置して使い過ぎると腱鞘が肥厚したり、腱が腫大したりしてさらに悪化します。しまいには指が伸ばせない状態になったり、指の第 2 関節に痛みが出てくることもあります。診断は「ばね現象」とつけ根の腫脹、圧痛から容易につけることができます。

3. ドケルバン病（狭窄性腱鞘炎）

これもばね指と同じ腱鞘炎ですが、手首の親指側に痛みが出ます。これは親指を伸ばす働きの腱と広げる働きをする腱がそれらをおさえている腱鞘のあいだで炎症を起こすことで発症します。ばね指と同じく男女では女性の方が多く、親指の使い過ぎや、更年期や妊娠、授乳などのホルモンバランスが原因で起こることが考えられています。診断は手首の親指側に腫脹、圧痛があることと、親指を曲げ、他の 4 本の指の中に入れた「グー」をつくり、手首を小指側に曲げた時に強い痛みが走ります。

治療法ですが、ばね指もドケルバン病も使い過ぎによる腱鞘炎ですから、治療の第一は「使い過ぎない」ことです。ドケルバン病では装具をすることもあります。そうはいつても手指を使わないことは不便をしいることになりますので、この場合は腱鞘に直接注射を

します。ステロイドという炎症をおさえる薬を少量の局所麻酔薬と混ぜて注射します。近年ではトリアムシノロン（ケナコルト®）という非常によく効く薬剤もありますが、使う量を間違えると腱の断裂の報告もありますので注意が必要です。また糖尿病の方では血糖値の上昇がみられますので主治医と相談してから注射するようにしてください。

それでも症状が続き、仕事や日常生活に支障が出て困るという方には手術をします。ばね指もドケルバン病も炎症を起こしている腱鞘を切開して腱の通り道を広げて開放してあげます。ばね指は手術時間 10～15 分で約 1 センチの切開で、ドケルバン病は手術時間 15～20 分で約 2 センチの切開で、いずれも局所麻酔で日帰りの手術です。人によって違いはありますが、2～3 日で痛みもよくなり、1～2 週間で抜糸、水仕事も可能になることが多いです。ばね指を鏡視下手術で治療する施設もあります。合併症としては、近くを走行する神経（指神経、橈骨神経浅枝）を損傷してしまうと手指のしびれが出る場合があります。

4. おわりに

整形外科でも「手外科」を専門とする先生が増えています。手外科専門医が全国に 700 名以上いますので、手の病気でお困りの際には学会 HP (<http://www.jssh.or.jp/>) から検索し、ご相談いただければと思います。

大阪掖済会病院
〒550-0022
大阪市西区本田 2-1-10
TEL 06-6581-2881
FAX 06-6584-1807
URL <http://www.osaka-ekisaikai.jp/>